

前思春期におけるインターネット使用とやせ願望の関連 (中間報告)

東京大学大学院医学系研究科脳神経医学 杉 本 徳 子

Exposure to internet may increase the risk of drive for thinness

Department of Neuropsychiatry,
Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, SUGIMOTO, Noriko

要 約

摂食障害は、10代における発症が最も多い。摂食障害のリスク因子の一つであるやせ願望の一部は摂食障害に発展する。やせ願望に影響を与える因子の一つとしてマスメディア（TVや雑誌など）の影響が大きく、多数報告があるが、マスメディアのうち、インターネットの影響に関する報告はまだ少ない。そこで今回我々は、東京にて前思春期を開始地点とした大規模一般人口を対象に縦断疫学研究を行い、前思春期（第一波調査）のインターネットの使用が思春期（第二波調査）のやせ願望に影響を及ぼすという推論を検証することとした。本稿では、縦断研究の第一波調査分のデータに基づき、前思春期(10歳)のやせ願望とインターネットの使用に関する解析結果を報告する。

【キー・ワード】コホート研究, 思春期, やせ願望, インターネット

Abstract

Eating disorders mostly emerge among teenagers. Though widely spread, drive for thinness (DT) is one of the risk factors for eating disorders. It is already known that various psychosocial factors, especially media exposure such as television and magazines have great effect on DT. However, there is few study which reported the associations between internet use and DT. Thus, the aims of this study are to examine whether internet use during preadolescence will be a significant predictor to increase DT in adolescence. We are conducting a longitudinal study with two measurement points as preadolescence (first wave) and adolescence (second wave) of which the psychopathologies and lifestyles of children in Tokyo, Japan. This article reports results of the first survey as cross sectional study. We investigated the associations between internet use and DT among 10-year-old preadolescents.

【Key words】 cohort study, adolescence, drive for thinness, internet

目 的

思春期は第二性徴を迎え、身体だけでなく脳の発達や精神面の成熟が進む。そして社会の多様な面から影響を受け、自己価値観を形成し、より複雑な人間関係を築いていく、多感な人生のステージであり、また一方で、多様な精神疾患が多発する時期でもある。そのうち摂食障害は、推定発症年齢において 10 代の占める割合が最も多い (Currin et al., 2005)。そして、摂食障害のリスク因子の一つである「今よりもやせたいと思う気持ち」すなわちやせ願望は、思春期前からみられることが報告されている (Stice et al., 2011)。やせ願望そのものは文化的背景を元に広く認知されており、その大部分は一過性のものとして収束するため、必ずしも病的な心理症状とは断定されないものの (一過性収束群)、一部の前思春期のやせ願望はその後、持続・反復しながら増悪し、極端な食事制限や過食嘔吐などの行動化を経て摂食障害に発展する (持続・増悪群) (図 1 参照)。やせ願望の予後、すなわち摂食障害への発展に関与する因子については多様な先行研究があるが、その中の一つとしてマスメディアの影響は極めて大きく、テレビや雑誌との関連は多数報告がある (Becker et al., 2002; Grabe et al., 2008)。しかし、マスメディアのうち、インターネットとやせ願望に関する報告はまだ少ない。インターネットに関しては思春期女子において、やせ願望は関連がある (Tiggemann et al., 2013) という横断研究による報告はある。しかし、前思春期から、大規模一般人口を縦断的に検討し、中・長期のアウトカム、および 2 群を分岐させる予測要因 (収束要因, 増悪要因) の一つとして、インターネットについて検討した疫学研究は、申請者の知り限り見当たらなかった。マスメディアの新たな一形態として、インターネットは現在若年者の間で急速に広まっていることから、SNS の使用がやせ願望にどのような影響を与えているかを調べることは喫緊の課題であると考えられる。そこで今回我々は、前思春期期を開始地点とした大規模一般人口を対象に縦断疫学研究を行い、前思春期のインターネットの使用が自己価値観の一部であるやせ願望に影響を及ぼし、思春期に持続・増悪させるという推論を検証することとした。

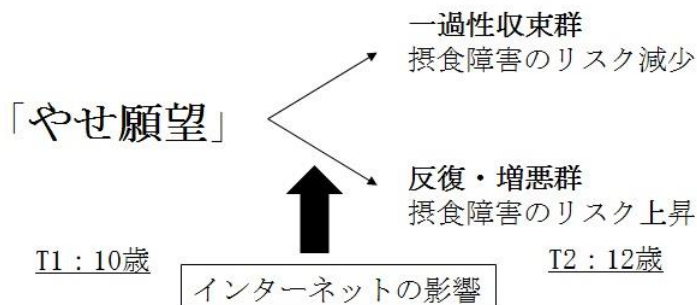


図 1 インターネット使用がやせ願望に及ぼす影響モデル

方 法

1. 調査対象と内容

現在我々は、東京都内3自治体（三鷹市・調布市・世田谷区）において児童とその主たる養育者（主に母親）を対象とした精神保健疫学調査を実施している（青春期の健康・発達調査：東京ティーンコホート）。対象者は、該当地域の自治体で住民基本台帳閲覧申請を行い、審査・承認を経て、2012年3月に9歳児童の居住する全世帯から14,570世帯をランダム抽出し、同年9月より書面郵送にて研究協力を依頼した（図2参照）。現在、協力同意の得られた世帯に対して無記名の質問紙調査および自宅訪問による面接調査を施行しており、最終的には約4500人のデータとなる見込みである（第一波調査：T1）。更に、2014年8月より、同集団に対し第二波調査（T2）を開始しており、2015年内に調査を終了する。調査の内容は、大規模一般人口が対象であることから、精神病理に限局することなく家庭環境、学校生活や人間関係など、子どもの成長にまつわる社会的な因子も含め包括的に聴取している点が特徴的である。当研究に用いるやせ願望やインターネットをはじめ、他メディアの使用形態や頻度、人間関係、精神病理などに関する項目はいずれも自記式の質問紙から情報を取得する。なお、本研究の倫理審査は研究代表者の所属研究機関倫理委員会に申請し、承認を受けた上で実施している。

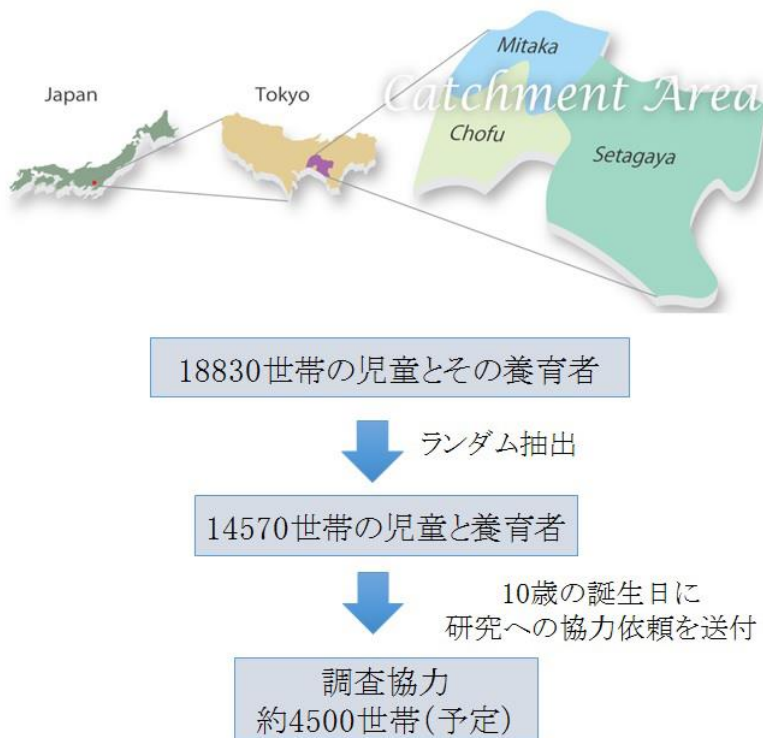


図2 調査協力者

2. 解析方法

収集したデータを男子と女子の 2 群に分け、やせ願望やインターネットの使用頻度などについて検証した。更に、インターネットの使用目的を①宿題（情報検索）②友人とのメール交換③SNS の 3 パターンに分類し、その他のマスメディアの影響（テレビや DVD など）、精神病理（抑うつ）、体型、二次性徴などの因子の影響を調整した上で、やせ願望とインターネットの各目的の関連についてロジスティック回帰分析にて検証した。

現在の進捗状況および今後の方針

現時点で得られているデータは第一波の横断研究（約 3000 人）のものである。本データにより、一般人口標本においても 10 歳の時点で、男子で 16%、女子で 21%にやせ願望があり、摂食障害のリスクを既に抱えている可能性があることが明らかになった。また、インターネットの使用は男子の 85.7%、女子の 83.1%、更に SNS においては男子の 5.8%、女子の 4.5%で認めた。また、やせ願望とインターネットの使用の関連においては、女子の③SNS においてのみ有意な関連を認めた(odds ratio (OR) =2.28, 95% confidence interval (CI) : 1.12-4.64)。現段階では横断データであるため、10 歳女子においてやせ願望と SNS の使用には関連があることが判明したのみであり、因果関係を特定することは出来ない。

したがって今後は、1) どのような児童にやせ願望が強いのか、また、インターネットの使用を頻繁に認めるのか、2) 10 歳時のインターネットの使用が 2 年後のやせ願望に影響を及ぼし、増悪因子となりうるのか（図 1 参照）、の 2 点を検証していく方針である。

引用文献

- Becker, A. E., Burwell, R. A., Gilman, S. E., Herzog, D. B., & Hamburg, P. (2002). Eating behaviours and attitudes following prolonged exposure to television among ethnic Fijian adolescent girls. *The British Journal of Psychiatry*, 180, 509-514.
- Currin, L., Schimidt, U., Treasure, J., & Jick, H. (2005). Time trends in eating disorder incidence. *The British Journal of Psychiatry*, 186, 132-135.
- Grabe, S., Ward, M. L., & Hyde, S. J. (2008). The Role of the Media in Body Image Concerns Among Women: A Meta-Analysis of Experimental and Correlational Studies *Psychological Bulletin*, 134, 460-476.
- Stice, E. (2002). Risk and Maintenance Factors for Eating Pathology: A Meta-Analytic Review. *Psychological Bulletin*, 128, 825-848.
- Tiggemann, M., & Slater, A. (2013). NetGirls: the Internet, Facebook, and body image concern in adolescent girls. *International Journal of Eating Disorders*, 46, 630-633.